

# 令和2年度登録販売者試験問題

実施日：令和2年8月30日（日）

試験時間：12:00～14:00

内容：医薬品に共通する特性と基本的な知識（20問）  
主な医薬品とその作用（40問）

◎ 問題用紙は、指示があるまで開かないでください。

## 【注意事項】

- 1 試験時間中は発言してはいけません。質問など用があるときは、だまって手を挙げて試験監督者の指示に従ってください。
- 2 携帯電話などの通信機器は、必ず電源を切っておいてください。
- 3 不正行為は絶対にしないでください。万一、発見した場合は、失格者として退場していただきます。
- 4 受験票は机に貼ってある受験番号を記載した札の横に置いてください。
- 5 受験票、鉛筆またはシャープペンシル、消しゴム、時計以外のものは机の上に置かないでください。
- 6 試験開始および試験終了は試験監督者の指示に従ってください。
- 7 試験が始まったら、解答用紙に受験番号および受験者氏名を忘れずに記入してから始めてください。
- 8 試験問題は、「医薬品に共通する特性と基本的な知識」11ページ、「主な医薬品とその作用」24ページの合計35ページです。  
試験開始後、落丁がないことを確認してください。
- 9 各問題の正しい答えは一つしかないので、最も適切と思った答えを一つ選び、解答用紙に記入してください。
- 10 答えは丁寧に、はっきりと記載してください。また、答えを修正した場合は、必ず消しゴムであとが残らないよう完全に消してください。答えが判別できない場合は、不正解となるので注意してください。
- 11 問題用紙は、試験時間終了後持ち帰ることができます。
- 12 この試験における医薬品の名称および成分名は、厚生労働省作成の「試験問題の作成に関する手引き（平成30年3月）」に基づいています。
- 13 試験問題文中の「医薬品医療機器等法」は、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の略称です。

## I 医薬品に共通する特性と基本的な知識

### 問 1

医薬品の本質に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品は、効能効果、用法用量、副作用等の情報を適切に伝達するため、添付文書や製品表示に必要な情報が記載されている。
- b 医薬品医療機器等法では、健康被害の発生の可能性の有無にかかわらず、医薬品に異物等の混入、変質等があってはならない旨を定めている。
- c 医薬品は、市販後にも、医学・薬学等の新たな知見、使用成績等に基づき、その有効性、安全性等の確認が行われる。
- d 医薬品は、人の生命や健康に密接に関連するものであるため、高い水準で均一な品質が保証されていなければならない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

### 問 2

医薬品の本質に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品の保健衛生上のリスクは、医療用医薬品と同等であると考えられている。
- b 医薬品は、人の疾病の診断、治療もしくは予防に使用されること、または人の身体の構造や機能に影響を及ぼすことを目的とする生命関連製品である。
- c 人体に使用されない医薬品は、人の健康に影響を与えることはない。
- d 医薬品が人体に及ぼす作用は、複雑、かつ、多岐に渡り、好ましくない反応（副作用）を生じる場合もある。

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

## I 医薬品に共通する特性と基本的な知識

### 問3

医薬品のリスク評価に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品は、少量の投与でも発がん作用、胎児毒性や組織・臓器の機能不全を生じる場合がある。
- b 動物実験により求められる50%有効量は、薬物の毒性の指標として用いられる。
- c 新規に開発される医薬品のリスク評価は、医薬品毒性試験法ガイドラインに沿って、反復投与毒性試験や生殖・発生毒性試験などの毒性試験が厳格に実施されている。
- d 医薬品は、治療量上限を超えると、効果よりも有害反応が強く発現する「最小致死量」となり、「中毒量」を経て、「致死量」に至る。

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

### 問4

健康食品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 栄養機能食品については、各種ビタミンに対して「栄養機能の表示」ができる。
- b 健康補助食品の中には、錠剤等の医薬品と類似した形状で発売されているものも多く、誤った使用方法により健康被害が発生した例も報告されている。
- c 機能性表示食品は、疾病に罹患している者の健康の維持および増進に役立つ旨または適する旨を表示することができる。
- d 健康増進法に基づく許可または承認を受けた特定保健用食品であるキシリトールを含む食品については、[虫歯の原因になりにくい食品です]などの表示をすることができる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

## I 医薬品に共通する特性と基本的な知識

### 問5

医薬品の副作用に関する記述について、( )に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

世界保健機関(WHO)の定義によれば、医薬品の副作用とは、「疾病の予防、診断、( a )のため、又は身体の機能を正常化するために、人に( b )で発現する医薬品の有害かつ( c )反応」とされている。

	a	b	c
1	治療	通常用いられる量	意図しない
2	治療	通常よりも過剰な量	重篤な
3	治療	通常用いられる量	重篤な
4	健康	通常用いられる量	意図しない
5	健康	通常よりも過剰な量	重篤な

### 問6

アレルギーに関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 アレルギーは、一般的にあらゆる物質によって起こり得るものであるため、医薬品の薬理作用等とは関係なく起こり得る。
- 2 医薬品の有効成分だけでなく、基本的に薬理作用がない添加物も、アレルギーを引き起こす原因物質となり得る。
- 3 普段は医薬品にアレルギーを起こしたことがない人でも、病気等に対する抵抗力が低下している状態などの場合には、医薬品がアレルゲンになることがある。
- 4 アレルギーと遺伝的な要素は関連がない。
- 5 鶏卵や牛乳に対するアレルギーがある人では、使用を避けなければならない医薬品がある。

## I 医薬品に共通する特性と基本的な知識

### 問 7

医薬品の副作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品の副作用は、眠気や口渇等の比較的良好に見られるものはあるが、日常生活に支障を来すような健康被害を生じる重大なものはない。
- b 医薬品が人体に及ぼす作用は、全ては解明されていないため、十分注意して適正に使用された場合であっても、副作用が生じることがある。
- c 一般用医薬品の場合は、通常、重大な副作用を回避することよりも、使用中断することによる不利益を回避することが優先される。
- d 医薬品の副作用は、直ちに明確な自覚症状として現れ、容易に異変を自覚できるものばかりである。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

### 問 8

医薬品の適正使用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 症状に適切ではない一般用医薬品を選択し、改善しないまま使用し続けた場合、有害事象を招く危険性が増加する。
- b 使用する人の誤解や認識不足に起因する不適正な使用を防止するには、医薬品の販売に従事する専門家が、購入者に正しい情報を適切に伝えていくことが重要である。
- c 適正な使用がなされる限りは安全かつ有効な医薬品であっても、乱用された場合には薬物依存を生じることがある。
- d 青少年は、薬物乱用の危険性に関する認識や理解が必ずしも十分でなく、好奇心から身近に入手できる薬物を興味本位で乱用することがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

## I 医薬品に共通する特性と基本的な知識

### 問 9

他の医薬品や食品との相互作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 相互作用は、医薬品が薬理作用をもたらす部位において起こり、医薬品が吸収、代謝、分布または排泄<sup>せつ</sup>される過程で起こることはない。
- b 酒類（アルコール）をよく摂取する者では、肝臓の代謝機能が高まっていることが多く、アセトアミノフェンの薬効が強くと現れることがある。
- c 一般用医薬品は、一つの医薬品の中に作用の異なる複数の成分を組み合わせ含んでいることが多く、他の医薬品と併用した場合に、同様な作用を持つ成分が重複することがある。
- d 注射薬の作用や代謝は、食品によって影響を受ける可能性はない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

### 問 10

小児等への医薬品の使用に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品の使用上の注意において、小児という場合には、おおよその目安として、7歳以上18歳未満をいう。
- b 小児は、大人と比べて血液脳関門が未発達であるため、吸収されて循環血液中に移行した医薬品の成分が脳に達しにくい。
- c 小児は、大人と比べて身体の大きさに対して腸が長く、服用した医薬品の吸収率が相対的に高い。
- d 乳児は状態が急変しやすく、一般用医薬品の使用の適否が見極めにくいいため、基本的には医師の診療を受けることが優先される。

1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

## I 医薬品に共通する特性と基本的な知識

### 問 1 1

高齢者への医薬品の使用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 高齢者の基礎体力や生理機能の衰えの度合いは個人差が大きく、年齢のみから若年時と比べて一概にどの程度副作用を生じるリスクが増大しているかを判断することは難しい。
- b 高齢者は、細かい文字が見えづらく、添付文書や製品表示の記載を読み取るのが難しい場合等があり、情報提供や相談対応において特段の配慮が必要となる。
- c 高齢者は、特に、肝臓や腎臓の機能が低下していると医薬品の作用が強く現れやすく、若年時と比べて副作用を生じるリスクが高くなる。
- d 一般用医薬品は作用が比較的穏やかであり、高齢者が複数の医薬品を長期間使用しても副作用を生じるリスクは低い。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

### 問 1 2

妊婦または妊娠していると思われる女性および母乳を与える女性（授乳婦）への医薬品の使用に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 流産や早産を誘発するおそれがある一般用医薬品はない。
- b 妊婦が使用した場合における安全性に関する評価が困難であるため、一般用医薬品においては、妊婦の使用については「相談すること」としているものが多い。
- c 医薬品の種類によっては、授乳婦が使用した医薬品の成分の一部が乳汁中に移行することが知られている。
- d 妊婦が医薬品を使用した場合に、血液-胎盤関門によって、医薬品成分の胎児への移行がどの程度防御されるかは、全て解明されている。

1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

## I 医薬品に共通する特性と基本的な知識

### 問 1 3

プラセボ効果に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a プラセボ効果とは、医薬品を使用したとき、結果的または偶発的に薬理作用によらない作用を生じることをいう。
- b プラセボ効果によってもたらされる反応や変化には、望ましいもの（効果）と不都合なもの（副作用）とがある。
- c プラセボ効果には、時間経過による自然発生的な変化（自然緩解など）は関与しないと考えられている。
- d 一般用医薬品の使用によりもたらされた望ましい反応や変化が、プラセボ効果と思われるときは、購入者に対して使用の継続を勧めるとよい。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

### 問 1 4

医薬品の品質に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 品質が承認等された基準に適合しない医薬品、その全部または一部が変質・変敗した物質から成っている医薬品は販売が禁止されている。
- b 高温や多湿、光（紫外線）等によって品質の劣化（変質・変敗）を起こしやすい一般用医薬品には、「保管期限」が表示されている。
- c 一般用医薬品は、購入された後、すぐに使用されるとは限らず、家庭における常備薬として購入されることも多いことに留意して、販売等がなされることが重要である。
- d 医薬品は、適切な保管・陳列がなされなければ、効き目が低下したり、人体に好ましくない作用をもたらす物質を生じることがある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	正	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正



## I 医薬品に共通する特性と基本的な知識

### 問 1 5

一般用医薬品で対処可能な症状等の範囲に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 生活の質（QOL）の改善・向上効果は期待できない。
- b 重篤な疾病に伴う症状の改善には適切とはいえない。
- c 生活習慣病等の疾病に伴う症状発現を予防する。（科学的・合理的に効果が期待できるものに限る。）
- d 健康を維持・増進するが、健康状態の自己検査はできない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	正	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

### 問 1 6

一般用医薬品の販売時のコミュニケーションに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品の販売に従事する専門家は、生活者のセルフメディケーションに対して支援していくという姿勢で臨むことが基本である。
- b 購入者があらかじめ購入する医薬品を決めている場合は、医薬品の販売に従事する専門家は、購入者側の個々の状況把握に努める必要はない。
- c 医薬品の販売に従事する専門家が購入者側の状況を把握するため購入者に尋ねる場合は、一般用医薬品の使用状況のみを簡潔に確認するよう努める必要がある。
- d 購入者側に情報提供を受けようとする意識が乏しく、症状のある購入者とコミュニケーションが成立しがたい場合には、購入者の状態や様子全体から状況把握することで十分である。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

## I 医薬品に共通する特性と基本的な知識

問 17

サリドマイドおよびサリドマイド訴訟に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a サリドマイド製剤は、使用した男性の精子形成能に異常を起こし、サリドマイド胎芽症が発生した。
- b サリドマイドには光学異性体があり、一方の異性体には鎮静作用、もう一方の異性体には血管新生を妨げる作用がある。
- c 日本では、西ドイツ（発生当時）企業から勧告や警告が発せられていたにもかかわらず、出荷・販売停止、回収措置などが遅れ、問題視された。
- d サリドマイド訴訟は、我が国では製薬企業のみが被告として提訴された。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

## I 医薬品に共通する特性と基本的な知識

問 18

スモンおよびスモン訴訟に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a スモン訴訟とは、催眠鎮静剤として販売されていたキノホルム製剤を使用したことにより、亜急性脊髄視神経症に罹患したことによる損害賠償訴訟である。
- b スモンはその症状として、初期には腹部の膨満感から激しい腹痛を伴う下痢を生じ、次第に下半身の痺れや脱力、歩行困難等が現れる。
- c スモン訴訟は国および製薬企業を被告として提訴されたが、早期救済のために、各地の地裁および高裁で和解が勧められ、1979年に全面和解が成立した。
- d スモン訴訟等を契機として、医薬品副作用被害救済制度が創設された。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

## I 医薬品に共通する特性と基本的な知識

問 19

HIV訴訟に関する次の記述について、( )に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

HIV訴訟は、( a ) 患者が、ヒト免疫不全ウイルス (HIV) が混入した原料 ( b ) から製造された ( c ) 製剤の投与を受けたことにより、HIVに感染したことに対する損害賠償訴訟である。

	a	b	c
1	白血病	血漿 <sup>しょう</sup>	血液凝固因子
2	白血病	血小板	免疫グロブリン
3	血友病	血小板	血液凝固因子
4	血友病	血小板	免疫グロブリン
5	血友病	血漿 <sup>しょう</sup>	血液凝固因子

問 20

クロイツフェルト・ヤコブ病 (CJD) およびCJD訴訟に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a CJD訴訟とは、脳外科手術に用いられていたヒト乾燥硬膜を介してCJDに罹患したことに対する損害賠償訴訟である。
- b CJDは、細菌でもウイルスでもないリン脂質の一種であるプリオンが原因とされた。
- c CJDは、プリオンが脳の組織に感染し、次第に認知症に類似した症状が現れ、死に至る神経難病である。
- d CJD訴訟を契機として、生物由来製品による感染等被害救済制度が創設された。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

### Ⅲ 主な医薬品とその作用

#### 問 2 1

かぜ薬に関する記述について、正しいものはどれか。

- 1 かぜ薬の多くは原因となるウイルスの増殖を抑制する作用を有する。
- 2 インフルエンザ（流行性感冒）は、インフルエンザ菌による呼吸器感染症であり、一般用医薬品のかぜ薬では治療できない。
- 3 かぜ薬を選択する場合には、症状が一つの場合でも、できる限り多くの症状に対する成分が配合されているものを選択することが望ましい。
- 4 かぜ薬に配合される主な解熱鎮痛成分としては、アスピリンやグアイフェネシン、カッコンがある。
- 5 かぜ薬に配合される生薬成分であるマオウは、プソイドエフェドリン塩酸塩と同様の作用を示す。

#### 問 2 2

かぜの症状緩和に用いられる漢方処方製剤に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a さいこけいしとう 柴胡桂枝湯は、体力中等度またはやや虚弱で、多くは腹痛を伴い、ときに微熱・寒気・頭痛・吐きけ等を伴うもののかぜの中期から後期の症状に適すとされる。
- b 構成生薬としてカンゾウを含むこうそさん香蘇散は、体力虚弱で、胃腸が弱く神経過敏で気分がすぐれないもののかぜのひきはじめに適すとされる。
- c しょうせいりゅうとう 小青竜湯は、体力充実して、かぜのひきはじめで、寒気がして発熱、頭痛があり、体のふしぶしが痛く汗が出ていないものの感冒等に適すとされる。
- d かつこんとう 葛根湯は、頭痛、肩こりにも効果があり、カンゾウが配合されていないことから安心して利用できる漢方処方製剤の一つである。

- 1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

### Ⅲ 主な医薬品とその作用

#### 問 2 3

かぜ薬および解熱鎮痛薬またはそれらの配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 多くの解熱鎮痛薬には、体内におけるプロスタグランジンの産生を促す成分が配合されている。
- b 解熱鎮痛薬は、発熱や痛みの原因となっている病気や外傷を根本的に治すものである。
- c 抗ヒスタミン成分のクロルフェニラミンマレイン酸塩は、くしゃみや鼻水を抑えることを目的として配合されている。
- d ジヒドロコデインリン酸塩は、副作用である下痢に注意を要する。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

#### 問 2 4

かぜ薬または解熱鎮痛薬に配合される成分（漢方処方成分・生薬成分を除く）の副作用に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a アスピリン<sup>ぜん</sup>喘息は、アスピリン以外の解熱鎮痛成分によっても生じることがある。
- b トラネキサム酸の代表的な副作用として、口渇が知られている。
- c 使用上の注意には、成分によらず、副作用としてショック（アナフィラキシー）が起こることがあると記載されている。
- d 解熱鎮痛成分を長期連用しても、副作用が起こることはない。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

### Ⅲ 主な医薬品とその作用

問 2 5

50歳代の女性、体力中等度以下で、手足が冷え、肩もこっており、頭痛とともに吐きけもする。この女性に適している漢方処方製剤はどれか。

- 1 疎経活血湯そけいかくけつとう
- 2 桂枝加朮附湯けいしかじゅつぷとう
- 3 麻杏薤甘湯まきょうよくかんとう
- 4 呉茱萸湯ごしゅゆとう
- 5 芍薬甘草湯しゃくやくかんぞうとう

問 2 6

抗ヒスタミン成分を主薬とする催眠鎮静薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 脳内におけるヒスタミン刺激を低下させることにより眠気を促す。
- b 小児に使用しても副作用が生じる恐れはない。
- c 慢性的な睡眠障害の人を対象とするものではない。
- d 抗ヒスタミン成分を含有する医薬品を服用後は、一度目覚めた後であれば、眠気やだるさを感じても、自動車の運転を避ける必要はない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

### Ⅲ 主な医薬品とその作用

#### 問 27

精神不安、不眠等の精神神経症状の改善を期待して用いられる生薬および漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a チャボトケイソウ、ホップ、チョウトウコウ、カノコソウの生薬成分は、神経の興奮・緊張緩和を目的として製品に複数配合されることがある。
- b 神経症、不眠症に用いられる抑肝散加陳皮半夏よくかんさんかちんびはんげは、やや消化器が弱い人には不向きである。
- c 酸棗仁湯さんそうにんとうは体力中等度以上で、心身が疲れ、精神不安、不眠などがあるものの不眠症に適すとされる。
- d 桂枝加竜骨牡蛎湯けいしかりゅうこつぼれいとうは体力中等度以上で、精神不安があるものの神経症や不眠症に適すとされる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	誤	誤

#### 問 28

眠気を促す薬とアルコールの相互作用に関する記述について、( )の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

寝つきが悪いときの処置としてアルコールが摂取されることがあるが、飲酒とともに ( a ) などを含む催眠鎮静薬を服用すると、その鎮静効果が ( b ) されるおそれがあるため、服用時には飲酒を避ける必要がある。

	a	b
1	エテンザミド	減弱
2	エテンザミド	増強
3	カフェイン	減弱
4	ブロモバレリル尿素	減弱
5	ブロモバレリル尿素	増強



### Ⅲ 主な医薬品とその作用

#### 問 29

眠気防止薬の有効成分であるカフェインに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a カフェインには、脳に軽い興奮状態を引き起こす作用がある。
- b カフェインは、尿量の減少をもたらす。
- c 小児用の眠気防止薬として、無水カフェインを用いる。
- d 授乳中の女性がカフェインを摂取すると、その一部が乳汁中に移行する。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

#### 問 30

乗物酔い防止薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 乗物の運転操作をするときは、乗物酔い防止薬の使用を控える必要がある。
- b ジフェニドール塩酸塩は、排尿困難や緑内障の症状を悪化させるおそれがある。
- c ジメンヒドリナートは、抗コリン成分である。
- d スコポラミン臭化水素酸塩水和物は、胃粘膜への局所麻酔作用により嘔吐<sup>おう</sup>刺激を和らげる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

### Ⅲ 主な医薬品とその作用

#### 問31

気管支拡張成分のメチルエフェドリン塩酸塩を使用する前に、その適否につき、医師または薬剤師に相談がなされるべき基礎疾患の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 甲状腺機能障害
- b 糖尿病
- c 高血圧
- d 心臓病

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	正	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

#### 問32

咳、痰および喉の不快感に用いられる医薬品の生薬成分および漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a トウキは、去痰作用を期待して用いられる。
- b ヨクイニン<sup>たん</sup>は、去痰作用を期待して用いられる。
- c 麦門冬湯<sup>たん</sup>は、体力中等度以下で、痰が切れにくく、ときに強く咳こみ、または咽頭の乾燥感があるものから咳、気管支炎、気管支喘息、咽頭炎、しわがれ声に適すとされる。
- d 駆風解毒湯<sup>ぜん</sup>は、体力に関わらず、喉が腫れて痛む扁桃炎、扁桃周囲炎に適すとされる。水またはぬるま湯に溶かしてうがいしながら少しずつゆっくり服用するとよい。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	誤	正

### Ⅲ 主な医薬品とその作用

#### 問 3 3

35歳女性、咳と咽喉・食道部の異物感の症状に良い漢方処方製剤はないかドラッグストアに相談に来られた。状態や症状を確認したところ、体力は中等度で、虚弱体質でもなく、比較的神経質で胃腸が弱く、足にむくみがあることがわかった。最も推奨すべき漢方処方製剤はどれか。

- 1 はんげこうぼくとう 半夏厚朴湯
- 2 さいぼくとう 柴朴湯
- 3 まきょうかんせきとう 麻杏甘石湯
- 4 しんぴとう 神秘湯
- 5 ごことう 五虎湯

#### 問 3 4

胃に作用する薬に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a メタケイ酸アルミン酸マグネシウムは、胃酸の中和作用のほか、胃粘膜を保護する作用もある。
- b 乾燥酵母やカルニチン塩化物は、健胃成分として配合される場合がある。
- c アルジオキサやスクラルファートは、健胃成分である。
- d ピレンゼピン塩酸塩は、ノルアドレナリンの働きを抑える。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

### Ⅲ 主な医薬品とその作用

#### 問35

胃腸の不調を改善する目的で用いられる生薬および漢方処方製剤に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a オウバク、オウレン、センブリ等の生薬成分が配合されている健胃薬は、苦くて非常に飲みにくいので、散剤をオブラート等で包んで飲むとよい。
- b 安中散<sup>あんちゅうさん</sup>は、体力中等度以下で腹部筋肉が弛緩<sup>し</sup>する傾向にあり、胃痛または腹痛があつて、ときに胸やけや、げっぷ、食欲不振、吐きけなどを伴うものの神経性胃炎、慢性胃炎、胃腸虚弱に適するとされる。
- c 大黃甘草湯<sup>だいおうかんぞうとう</sup>は体力に関わらず広く応用され、便秘、便秘に伴う頭重、のぼせ、湿疹<sup>しん</sup>・皮膚炎、ふきでもの、食欲不振、腹部膨満、腸内異常発酵、痔<sup>じ</sup>などの症状の緩和に適すとされる。
- d センナ、ダイオウが配合された瀉下薬<sup>しゃ</sup>は生薬由来であるため、授乳中の女性でも安心して使用できる。

1 (a、b)      2 (b、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

#### 問36

止瀉成分<sup>しゃ</sup>に関する記述について、正しいものはどれか。

- 1 ビスマスを含む成分は、妊婦または妊娠していると思われる女性に対して使用が推奨される。
- 2 タンニン酸アルブミンは、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）を生じることがある。
- 3 ロペラミド塩酸塩配合の止瀉薬<sup>しゃ</sup>は、食あたりや水あたりによる下痢に用いる。
- 4 ベルベリンは、腸管内に生じた有害物質の吸着成分である。
- 5 収斂成分<sup>れん</sup>を主体とする止瀉薬<sup>しゃ</sup>は、腸粘膜を弛緩<sup>し</sup>させることにより、腸粘膜を保護することを目的としている。

### Ⅲ 主な医薬品とその作用

#### 問 37

瀉下成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ヒマシ油は、妊婦や3歳未満の乳幼児では使用を避けることとされている。
- b 刺激性瀉下成分が配合された瀉下薬は一般に、腸の急激な動きに刺激されて流産・早産を誘発するおそれがある。
- c 無機塩類は、腸内容物の浸透圧を下げることで糞便中の水分量を増やす。
- d マルツエキスは、主に乳幼児の便秘に用いられるが、水分不足に起因する便秘には効果は期待できない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	正	正	誤	正

### Ⅲ 主な医薬品とその作用

問 38

一般用医薬品を一定期間使用して対処した場合であっても、症状の改善がみられないときに、継続して一般用医薬品を使用することが適当でない、対象成分を含む一般用医薬品とその使用期間の関係の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

	対象成分を含む一般用医薬品	使用期間
a	フマル酸第一鉄を含有する貧血用薬	1～3ヶ月
b	ポリエノスファチジルコリンを含有する高コレステロール改善薬	5～6日間
c	センソを含有する強心薬	5～6日間
d	ユビデカレノン含有する循環器用薬	1～3ヶ月

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

### Ⅲ 主な医薬品とその作用

問 39

心臓などの器官や血液に作用する薬およびその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a リュウノウは、中枢神経系の刺激作用による気つけの効果を期待して用いられる。
- b パンテチンは、腸管におけるコレステロールの吸収を抑える作用を示す。
- c ビタミンB12は、消化管内で鉄が吸収されやすい状態に保つことを目的として用いられる。
- d ヘプロニカートは、末梢の血液循環を改善する作用を示すとされる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	誤	正

問 40

貧血の改善を目的として、貧血用薬（鉄製剤）に配合されるビタミン成分の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ビタミンB1
- b ビタミンB2
- c ビタミンB6
- d ビタミンC

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

### Ⅲ 主な医薬品とその作用

#### 問4 1

比較的体力がある40歳代の女性、30代後半から子育てや仕事で忙しく、肩こりやのぼせ、月経不順、月経痛がひどく、月経前になるとそれらの症状がさらにひどくなるという。今回もひどい月経痛で漢方薬を求めて来店した。この人に最も適切な漢方処方製剤はどれか。

- 1 とう きしゃくやくさん  
当归芍薬散
- 2 さいこけいしかんきょうとう  
柴胡桂枝乾姜湯
- 3 けいしかしゃくやくとう  
桂枝加芍薬湯
- 4 けいしぶくりょうがん  
桂枝茯苓丸
- 5 ちよれいとう  
猪苓湯

#### 問4 2

アレルギーに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a アレルゲンが体内に入り込むと、その物質を特異的に認識した免疫アルブミンにより肥満細胞が刺激される。
- b アレルギーの発症に関わるマスト細胞は、肥満細胞ともいい、肥満症にも関与している。
- c 肥満細胞から遊離したヒスタミンは、血管拡張や血管透過性亢進等の作用を示し、アレルギー症状を引き起こす。
- d じん しん 蕁麻疹については、アレルゲンとの接触以外に、皮膚への物理的な刺激によって生じるものも知られている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	誤	正



### Ⅲ 主な医薬品とその作用

#### 問43

登録販売者が、顔、首、手の甲などに痒み<sup>かゆ</sup>がある顧客からの相談を受ける際、各々の顧客への対応について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 眠くならない飲み薬を希望されたので、ヒスタミンの作用を抑える働きのあるメキタジンを含有する製品を推奨した。
- b 「屋外で作業をすると症状が出ることが多い」と言っておられるので、アレルギー<sup>アレルギー</sup>の一種である日光蕁麻疹<sup>じんしん</sup>の可能性も考えた。
- c 漢方薬を希望されたので、体質や体力と症状を確認し、茵陳蒿湯<sup>いんちんこうとう</sup>を推奨した。
- d 漢方処方製剤ではない一般用医薬品のアレルギー用薬を販売したが、4週間続けて使用しても症状の改善がみられない場合には、医師の診療を受けるようお願いした。

1 (a、b)      2 (b、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

#### 問44

鼻炎用点鼻薬に含まれる成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ナファゾリン塩酸塩は、アドレナリン作動成分であり、鼻粘膜の充血や腫れを和らげることを目的として用いられる。
- b フェニレフリン塩酸塩が配合された点鼻薬は、過度に使用されると鼻粘膜の血管が反応しなくなり、逆に鼻づまり（鼻閉）がひどくなりやすい。
- c グリチルリチン酸二カリウムは、アレルギー性鼻炎にも用いられるが、かぜ薬や胃薬、鎮咳去痰薬<sup>がいたん</sup>などにも含まれている可能性があるため、総摂取量が継続して過剰にならないよう注意を促す必要がある。
- d リドカイン塩酸塩は、鼻粘膜の神経伝導を不可逆的に遮断することで鼻汁の分泌を抑える。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

### Ⅲ 主な医薬品とその作用

#### 問 4 5

眼科用薬に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a コンタクトレンズ装着液の中には、医薬部外品として認められているものもある。
- b 人工涙液は、主として結膜充血症状の改善に用いられる。
- c 抗菌性点眼薬は、結膜炎（はやり目）やものもらい（麦粒腫）、眼瞼炎（まぶたのただれ）等に用いられる。
- d 一般点眼薬は、主として、目の洗浄に用いられる。

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

#### 問 4 6

点眼薬に関して相談を受けた際の登録販売者の対応に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 緑内障の改善を希望する人には、一般用医薬品には希望に添える薬剤はないので、医療機関を受診し、専門医の診療を受けるように促した。
- b 目の痛みが激しいと訴える人には、抗炎症成分や組織修復成分を含有する点眼薬を勧めた。
- c 視力の異常を訴える人には、アドレナリン作動成分含有の点眼薬を勧めた。
- d 鶏卵によるアレルギーがある人には、グリチルリチン酸二カリウムを含有する点眼剤を勧めてはいけない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

### Ⅲ 主な医薬品とその作用

#### 問 4 7

きず口等の殺菌消毒成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ヨウ素の殺菌力は、石鹼<sup>けん</sup>と併用すると低下する。
- b ベンザルコニウム塩化物は、結核菌を含む一般細菌類、真菌類、ウイルスに対して殺菌消毒作用を示す。
- c 消毒用エタノールは、手指・皮膚の消毒、器具類の消毒のほか、粘膜（口唇等）の消毒にも適している。
- d オキシドールの作用は、持続性に乏しく、組織への浸透性も低い。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	誤	正

#### 問 4 8

外皮用薬として用いられる非ステロイド性抗炎症成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 分子内に副腎皮質ホルモンと共通する化学構造を持つ。
- b 小児への使用についても有効性・安全性が確認されており、ケトプロフェンを主薬とする外皮用薬では、小児向けの製品が市販されている。
- c ピロキシカムの副作用として光線過敏症が生じることがある。
- d 喘息<sup>ぜん</sup>の既往歴がある人では、使用を避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

### Ⅲ 主な医薬品とその作用

問 4 9

皮膚疾患に用いる代表的な抗菌成分のうち、細菌のタンパク質合成を阻害することにより抗菌作用を示す成分について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a クロラムフェニコール
- b 硫酸フラジオマイシン
- c スルファジアジン
- d バシトラシン

1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

問 5 0

みずむし・たむし等とその治療に関する記述について、(      )の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

みずむし、たむし等は、( a )という真菌類の一種が皮膚に寄生することによって起こる表在性真菌感染症である。スリッパやタオルなどを介して、他の保菌者やペットから感染することも多い。

ブテナフィン塩酸塩は、( a )の( b )を構成する成分の産生を妨げることにより、その増殖を抑える。

	a	b
1	アクネ菌	細胞膜
2	アクネ菌	細胞壁
3	白癬菌 <sup>せん</sup>	細胞壁
4	白癬菌 <sup>せん</sup>	細胞膜
5	黄色ブドウ球菌	細胞膜

### Ⅲ 主な医薬品とその作用

問51

口内炎および歯痛・歯槽膿漏に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 口内炎は、疱疹ウイルスの口腔内感染や医薬品の副作用が原因となって生じる場合がある。
- b 漢方処方製剤である茵陳蒿湯は、口内炎治療に用いられる場合がある。
- c 歯槽膿漏は、歯肉炎が重症化して、炎症が歯周組織全体に広がったものである。
- d 歯痛薬は、歯の齶蝕による歯痛を応急的に鎮めることを目的とする一般用医薬品であり、齶蝕自体を修復する作用はない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

### Ⅲ 主な医薬品とその作用

#### 問52

a～dは登録販売者と禁煙補助剤（咀嚼<sup>そしゃく</sup>剤）の購入者との会話である。購入者からの相談に対する登録販売者の適切な説明の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a	購入者	コーヒーを飲んだ後に使用してもよいですか。
	登録販売者	口腔 <sup>くわう</sup> 内が酸性になるとニコチンの吸収が低下するため、コーヒーを飲んだ後しばらくは使用を避けてください。
b	購入者	菓子のガムと同じように噛 <sup>か</sup> んで使用してもよいですか。
	登録販売者	唾液が十分に分泌されるように、連続的にしっかり噛 <sup>か</sup> んで使用してください。
c	購入者	うつ病で通院しているのですが、使用してもよいですか。
	登録販売者	症状を悪化させることがあるため、使用は避けてください。
d	購入者	早期に禁煙を達成したいので、1度に2個以上使用してもよいですか。
	登録販売者	大量に使用しても禁煙達成が早まるものではありません。かえってニコチン過剰摂取による副作用のおそれがありますので、1度に2個以上の使用は避けてください。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	正	正	誤	正

### Ⅲ 主な医薬品とその作用

#### 問 5 3

滋養強壯保健薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 滋養強壯保健薬は、体調の不調を生じやすい状態や体質の改善、特定の栄養素の不足による症状の改善などを目的として用いられる。
- b 筋肉痛や関節痛の改善を促す作用を期待し、コンドロイチン硫酸ナトリウムとビタミンB1が配合されている保健薬が販売されている。
- c ロクジョウが配合された滋養強壯保健薬は、ロクジョウの含有量により医薬部外品である場合もある。
- d 脂溶性ビタミンが配合された滋養強壯保健薬を摂取する場合は、過剰摂取とならないように注意する。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

#### 問 5 4

ビタミンB2に関する記述について、( )の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

( a ) に関与し、皮膚や粘膜の機能を正常に保つために重要な栄養素である。ビタミンB2主薬製剤は、( b )などが主薬として配合された製剤で、口角炎や口内炎の症状の緩和に有効である。ビタミンB2の摂取により、尿が( c )色になることがある。

	a	b	c
1	脂質の代謝	リボフラビン酪酸エステル	黄
2	ヘモグロビンの合成	アスコルビン酸	赤
3	脂質の代謝	アスコルビン酸	赤
4	脂質の代謝	アスコルビン酸	黄
5	ヘモグロビンの合成	リボフラビン酪酸エステル	赤

### Ⅲ 主な医薬品とその作用

問 5 5

漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 全ての漢方処方製剤は、作用が穏やかで、長期間（1ヶ月位）継続して服用しないと効果が得られない。
- b 漢方処方製剤を利用する場合、「証」の概念を良く理解し、漢方処方製剤が使用される人の体質と症状を十分に踏まえ、処方が選択されることが重要となる。
- c 全ての漢方処方製剤は、処方に基づく生薬混合物の浸出液を濃縮して調製された乾燥エキス製剤を散剤等に加工して市販されている。
- d 漢方薬は、現代中国で利用されている中医学に基づく薬剤と同じものである。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正



### Ⅲ 主な医薬品とその作用

問56

生薬および漢方処方製剤の副作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a かみしょうようさん 加味逍遙散またはおうれんげどくとう 黄連解毒湯の長期服用で、まれに副作用として腸間膜静脈硬化症が起こることが知られている。
- b かっこんとう かぜ薬の葛根湯、まおうとう 麻黄湯、しょうせいりゅうとう 小青竜湯には、構成生薬としてマオウが含まれており、その副作用によって心臓病、高血圧や甲状腺機能障害の診断を受けた人では、症状を悪化させるおそれがある。
- c カンゾウは多くの漢方処方製剤に配合されており、また甘味料として一般食品等にも広く用いられるため、摂取されるグリチルリチン酸の総量が継続して多くならないよう注意が必要である。
- d しょうさいことう 小柴胡湯は、インターフェロン製剤で治療を受けている人では、間質性肺炎の副作用が現れるおそれが高まるため、使用を避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	正	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

### Ⅲ 主な医薬品とその作用

問 57

次の記述に該当する殺菌消毒成分の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

皮膚刺激性が強いため、通常人体の消毒には用いられず、器具や設備等の殺菌・消毒に用いられる成分で、一般細菌類、真菌類、ウイルス全般に対する殺菌消毒作用を示す。金属腐食性がある。酸性の洗剤と反応して有毒な塩素ガスを発生する。

- a サラシ粉
- b クレゾール石<sup>けん</sup>鹼液
- c 次亜塩素酸ナトリウム
- d クロルヘキシジジングルコン酸塩

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

### Ⅲ 主な医薬品とその作用

問 5 8

殺虫剤および忌避剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 殺虫剤・忌避剤は衛生害虫の防除を目的とするもので、人体に対する作用が緩和な製品については医薬部外品として製造販売されている。
- b ハエの幼虫（ウジ）の防除の目的に、有機リン系殺虫成分が配合された殺虫剤の使用は有効である。
- c アタマジラミの防除にはメトキサジアゾンが配合されたシャンプーやてんか粉が用いられる。
- d 有機塩素系殺虫成分（DDT等）は、かつて広く使用されたが、残留性や体内蓄積性の問題から、現在ではオルトジクロロベンゼンが使用されているのみである。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

### Ⅲ 主な医薬品とその作用

#### 問 59

一般用検査薬に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 検査に用いる検体は、採取に際して侵襲のないことが原則であるが、自己血糖測定においては、必要量が微量であるため、穿刺血が検体として認められている。
- 2 悪性腫瘍に関わる検査項目については、現在一般用検査薬の対象とされていない。
- 3 販売時には薬剤師や登録販売者により検査薬の使い方や保管上の注意についてわかり易く説明することが求められる。
- 4 検体中の対象物質の濃度が低い場合には検出反応が起こらずに陰性の結果が出ることもある。

#### 問 60

妊娠検査薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般的な妊娠検査薬は、月経予定日を過ぎて概ね4週目以降に検査することが推奨されている。
- b 経口避妊薬などのホルモン剤を使用している人では、妊娠していなくても検査結果が陽性となることがある。
- c 検体としては、尿中hCG（ヒト<sup>じゅう</sup>絨毛性性腺刺激ホルモン）が検出されやすい起床直後の尿が向いているが、尿が濃すぎると、かえって正確な結果が得られないこともある。
- d 尿中hCGの検出反応は、hCGと特異的に反応する抗体や酵素を用いた反応であるため、検査薬は使用直前まで冷蔵庫内に保管するように説明して販売する。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤